

2026年3月期 決算短信補足資料

2026/5/14

株式会社ニッスイ



© Nissui All Rights Reserved.

2026年3月期 決算概況



2026年3月期 サマリー

売上高・各段階利益ともに過去最高を更新し、営業利益は初の400億円超え。

	2025年3月期 実績	2026年3月期 実績	対前期比 増減	増減率(%)	2026年3月期 修正計画 (2月発表)	増減率 (%)
売上高	8,861 億円	9,312 億円	451 億円	5.1	9,280 億円	0.4
営業利益	317 億円	404 億円	86 億円	27.2	380 億円	6.4
経常利益	353 億円	431 億円	78 億円	22.3	410 億円	5.3
親会社株主に 帰属する 当期純利益	253 億円	275 億円	21 億円	8.4	275 億円	0.1

※本資料に記載の計数は、表示単位未満を切り捨てて表示

※増減額は千円単位未満を切り捨てて算出しており、増減率は四捨五入により表示

2026年3月期 定量指標

ROIC・ROEは戦略的投資もあり減少となるも、ネットD/Eレシオは目標範囲内で推移。株主還元は増配に加え自社株買いも実施し、総還元性向は向上。

	2025年3月期 実績	2026年3月期 実績	対前期比 増減	中期経営計画 2028年3月期
ROIC	6.1 %	5.9 %	▲0.2	6.0 %
ROE	9.6 %	9.5 %	▲0.1	10.0 %
海外所在地 売上高比率	40.3 %	41.2 %	0.9	43.0 %
ネットD/E レシオ	0.7	0.8		0.7~0.8
総還元 性向	34.3 %	57.4 % ※		3年間で40.0 %

※2026年3月期 自己株式取得 60億円

2026年3月期 サステナビリティ指標

CO2排出量削減や女性幹部職比率、エンゲージメントスコアは着実に改善。

区分	KPI	基準	2024年度実績	2025年度実績
環境価値	プラスチック使用量削減率	2015年度比	9%	集計中
	持続可能な調達比率		75%	—
	CO ₂ 排出量削減	2018年度比	5.0%削減	7.5%削減
社会価値	健康領域商品売上	2021年度比	1.1倍	1.1倍
	1次サプライヤーアセスメント比率		ニッスイ個別 97.5%	ニッスイ個別 100%
	食品安全の第三者認証・適合証明の取得率		—	集計中
	ニッスイグループにおける商品回収等の重大品質事故		—	1件
人財価値	女性幹部職比率		7.9%	9.1%
	エンゲージメントスコア	2021年度比	+16.8%	+19.6%

2026年3月期 セグメント別概況

売上高はチルド事業に加え、欧米の食品、水産加工商事が好調で増収。

(単位:億円)	2025年3月期 実績	2026年3月期 実績	対前期比増減		2026年3月期 修正計画 (2月発表)	対修正計画増減	
			(億円)	率(%)		(億円)	率(%)
売上高	8,861	9,312	451	5.1	9,280	32	0.4
水産事業	3,640	3,801	160	4.4	3,765	36	1.0
食品事業	4,710	5,009	299	6.4	5,017	▲7	▲0.1
ファインケミカル事業	158	169	11	7.2	168	1	1.1
物流事業	165	166	0	0.5	167	▲0	▲0.5
その他	186	165	▲20	▲11.3	163	2	1.4
営業利益	317	404	86	27.2	380	24	6.4
水産事業	84	177	93	111.1	160	17	11.1
食品事業	287	296	9	3.2	284	11	4.2
ファインケミカル事業	8	8	▲0	▲5.9	14	▲6	▲42.1
物流事業	28	24	▲4	▲15.1	25	▲0	▲3.6
その他	9	4	▲4	▲46.0	4	▲0	24.9
全社経費	▲100	▲107	▲7	7.1	▲108	▲0	▲0.7
経常利益	353	431	78	22.3	410	21	5.3
親会社株主に帰属する当期純利益	253	275	21	8.4	275	0	0.1

<売上高為替影響額>

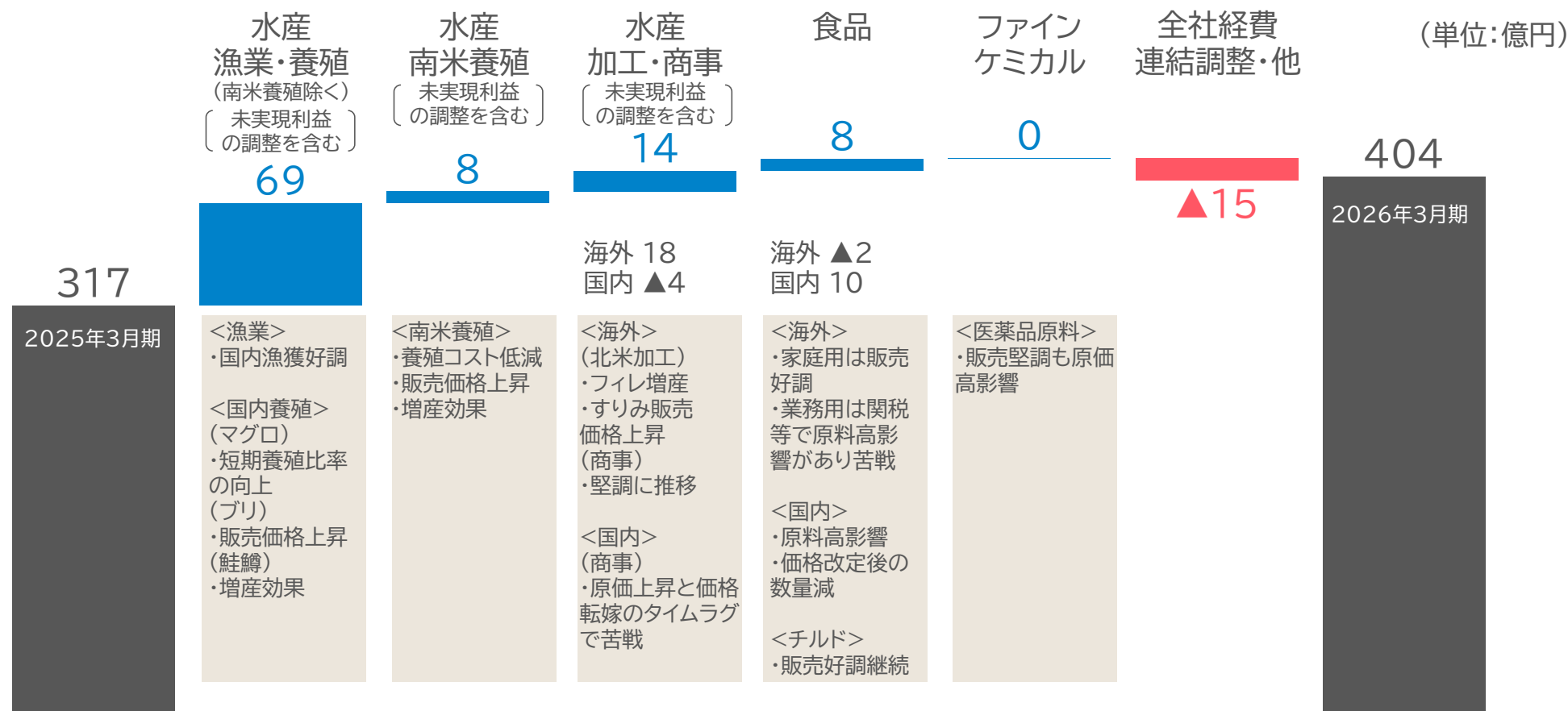
合計 +約24億円

水産 +約8億円

食品 +約16億円

2026年3月期 主な営業利益増減要因(前期比)

水産事業は国内の漁業・養殖、南米養殖、海外加工商事が牽引。
食品事業はチルド好調継続により国内外の原料価格上昇の影響をカバー。



2026年3月期 連結貸借対照表(前期末比)

南米養殖会社の買収、食品工場投資等により総資産が増加。

()内の数字は前期末比増減

(単位:億円)

流動資産	3,760	(+435)	流動負債	2,764	(+502)
現金及び預金	202	(+55)	支払手形及び買掛金	784	(+220)
受取手形及び売掛金	1,156	(+82)	短期借入金及び コマーシャル・ペーパー	1,330	(+188)
棚卸資産(在庫)	2,242	(+292)	未払費用	316	(+25)
固定資産	3,734	(+711)	固定負債	1,631	(+403)
有形固定資産	2,184	(+375)	長期借入金	1,209	(+251)
無形固定資産	379	(+209)	社債	100	(+100)
投資その他の資産	1,169	(+126)	純資産	3,099	(+240)
総資産	7,495	(+1,146)	自己資本	3,001	(+230)

自己資本比率

'25/3 43.6%

↓

'26/3 40.0%

2026年3月期 連結キャッシュフロー(前期比)

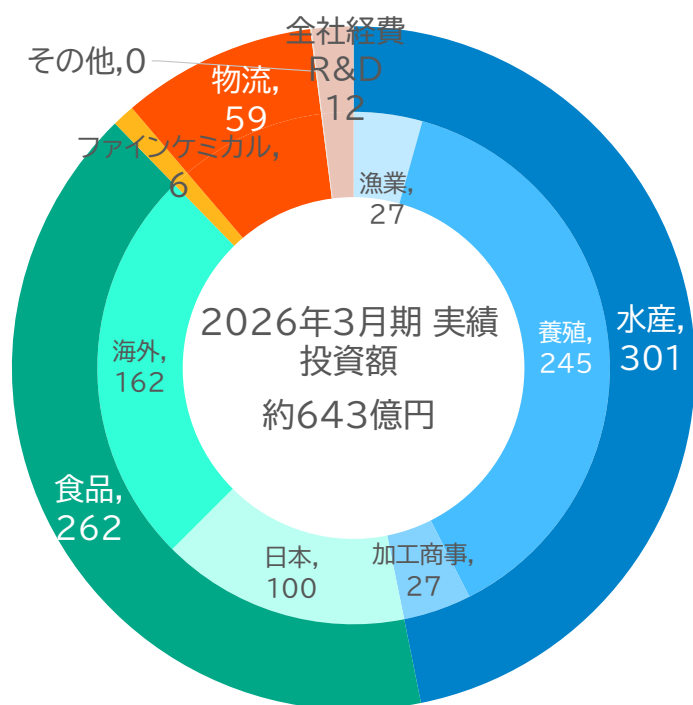
営業CFは500億円を超え、南米養殖会社買収など、投資を積極化。

(単位: 億円)	2025年3月期 実績	2026年3月期 実績	増減
・税金等調整前当期純利益	362	431	69
・減価償却費(のれん償却含む)	257	271	14
・運転資本	▲ 59	▲ 79	▲ 19
・法人税等の支払額	▲ 127	▲ 79	48
・その他	▲ 28	▲ 12	16
営業活動によるCF	403	532	128
・設備投資額(固定資産取得額)	▲ 309	▲ 443	▲ 133
・その他	6	▲ 170	▲ 176
投資活動によるCF	▲ 303	▲ 614	▲ 310
・短期借入金及びコマーシャルペーパーの増減額	66	53	▲ 13
・長期借入金の増減額	▲ 82	156	238
・社債の増減額	-	100	100
・その他	▲ 99	▲ 178	▲ 78
財務活動によるCF	▲ 114	131	245
現金及び現金同等物の期末残高	186	242	

2026年3月期 設備投資

水産では南米養殖会社の株式取得など、食品では海外工場関連投資、物流では新物流センター建て替えへの投資を実施。

<設備投資内訳>
※完成ベース



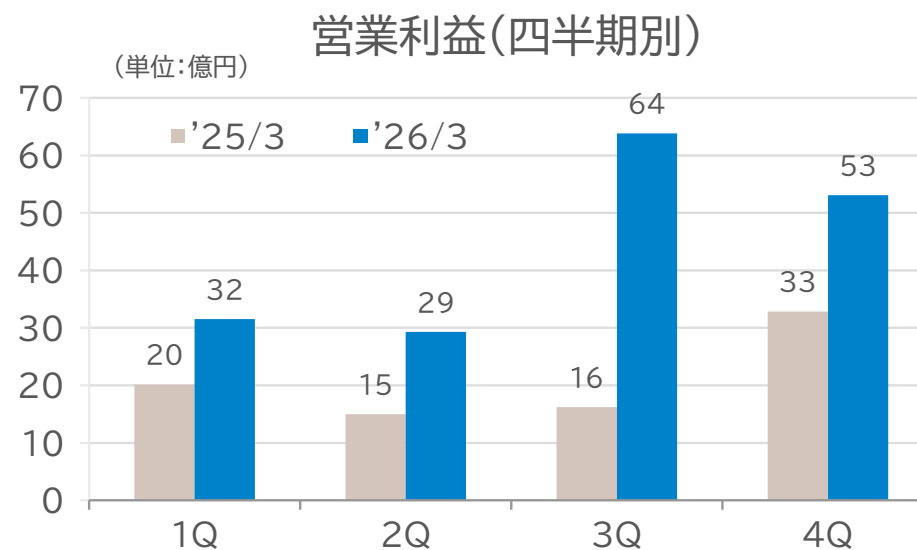
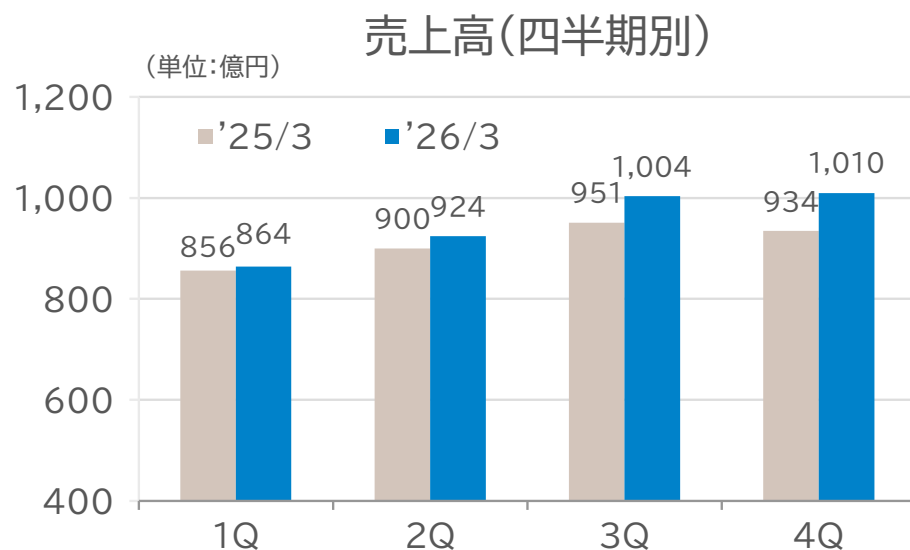
<主な設備投資の内訳>

2026年3月期 実績	
水産	
漁業	船舶建造他
養殖	南米養殖会社の株式取得、養殖設備・船舶
食品	
日本	ライン増設、維持更新
海外	北米工場への投資、欧州生産能力増強への投資
物流	
日本	新物流センター建て替え投資

2026年3月期 水産事業 売上高・営業利益(前期比)

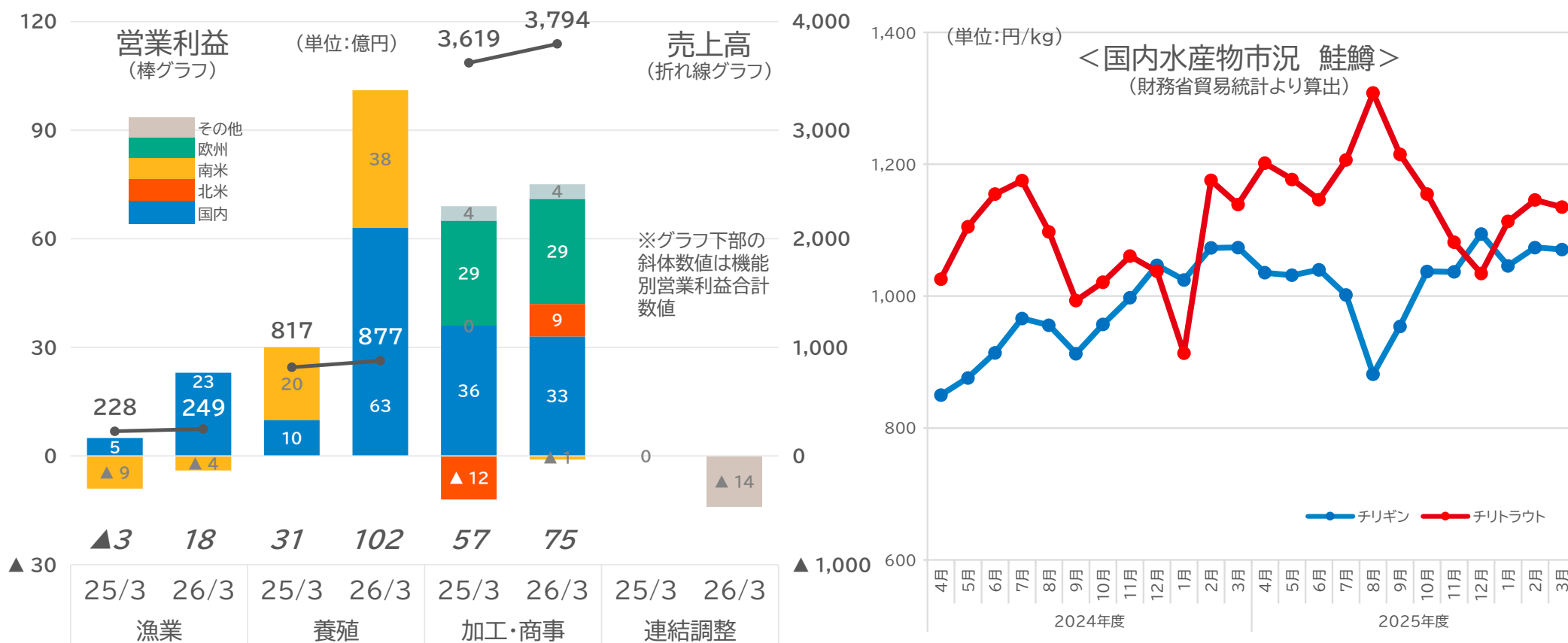
各四半期とも増収・増益。漁業・養殖は年間通して好調を維持したことに加え、北米加工の改善もあり、国内商事をカバー。

(単位:億円)	2025年3月期 実績	2026年3月期 実績	対前期比増減	
			(億円)	増減率(%)
売上高	3,640	3,801	160	4.4
営業利益	84	177	93	111.1



2026年3月期 水産事業 売上高・営業利益(前期比)

国内漁業はブリ・アジ・サバの漁獲好調。養殖は鮭鱒の養殖成績が改善、販売価格も上昇。北米の商事は堅調に推移したうえ、加工はフィレ生産拡大・すりみ価格上昇により赤字を一定程度削減。

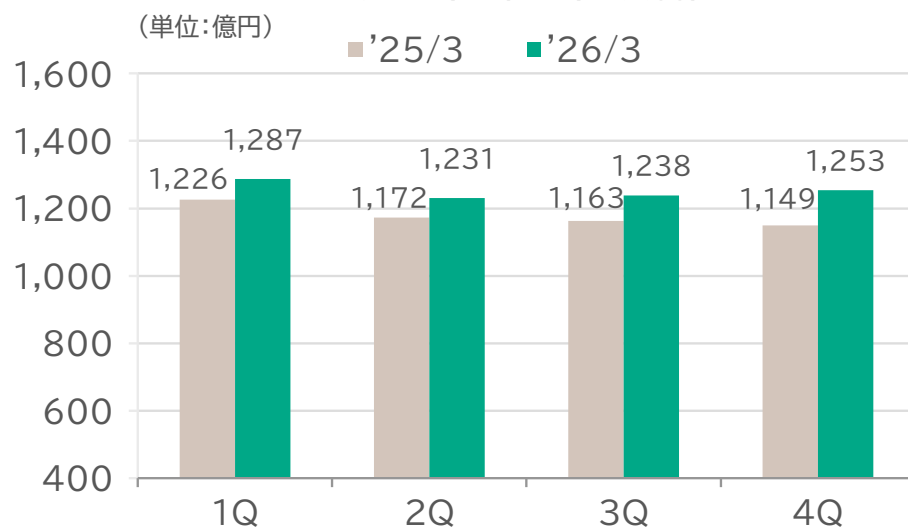


2026年3月期 食品事業 売上高・営業利益(前期比)

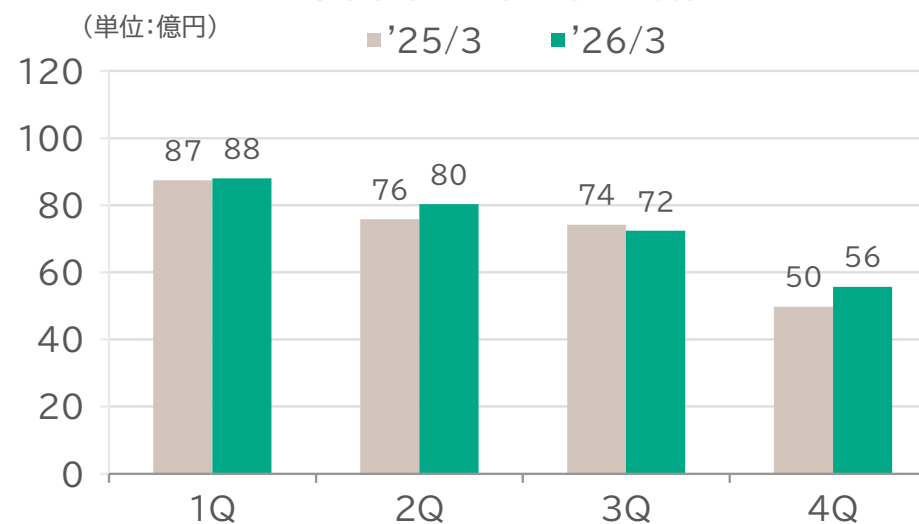
海外の家庭用や国内チルドが堅調に推移し、北米業務用や国内食品をカバー。

(単位:億円)	2025年3月期 実績	2026年3月期 実績	対前期比増減	
			(億円)	増減率(%)
売上高	4,710	5,009	299	6.4
営業利益	287	296	9	3.2

売上高(四半期別)

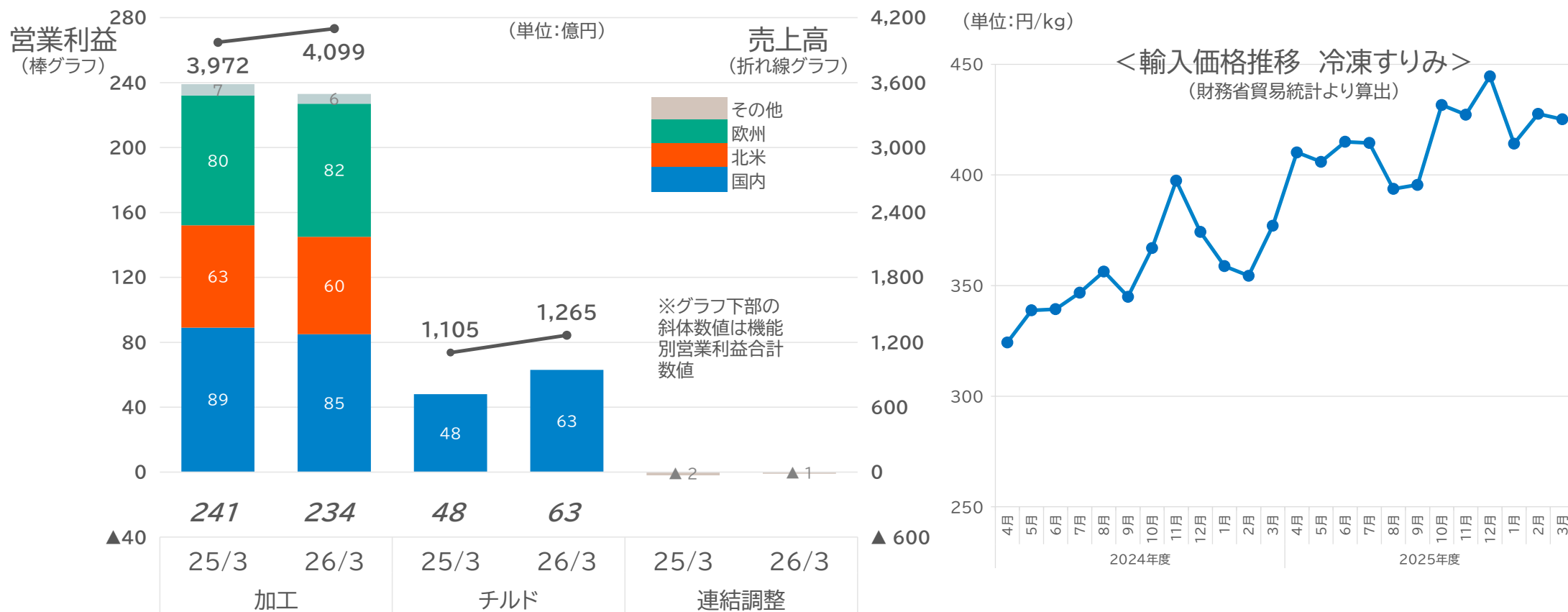


営業利益(四半期別)



2026年3月期 食品事業 売上高・営業利益(前期比)

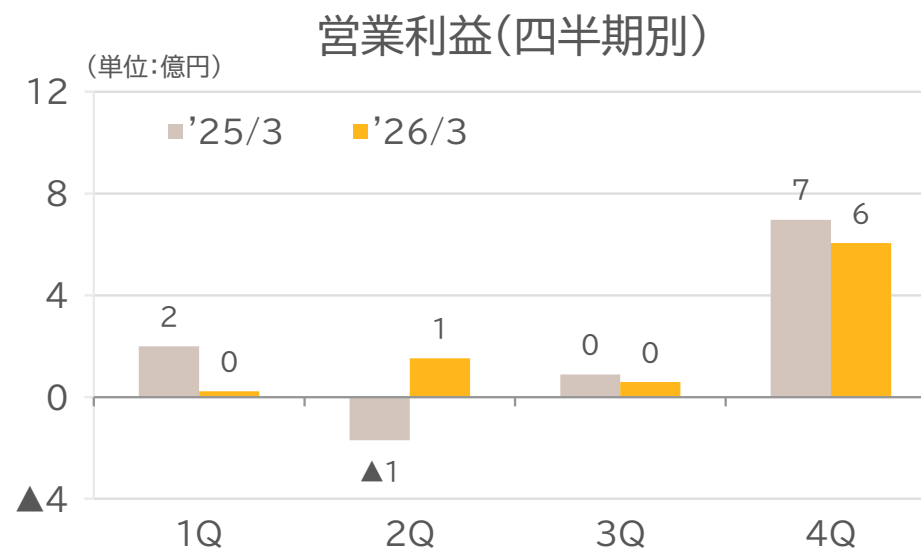
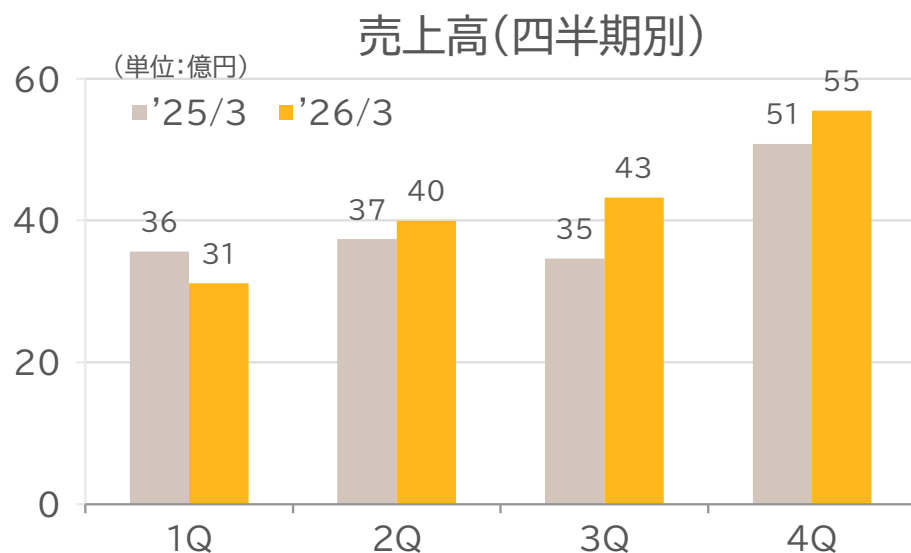
欧州はフランス・イギリスともに販売拡大、北米は家庭用が好調維持も業務用が苦戦。
国内はチルドが好調を継続し、米・すりみなどの原料コスト上昇で苦戦した加工をカバー。



2026年3月期 ファインケミカル事業 売上高・営業利益(前期比)

医薬品原料の販売やサプリメント向け機能性原料の国内販売が堅調に推移したものの、原価高の影響もあり利益は横ばい。

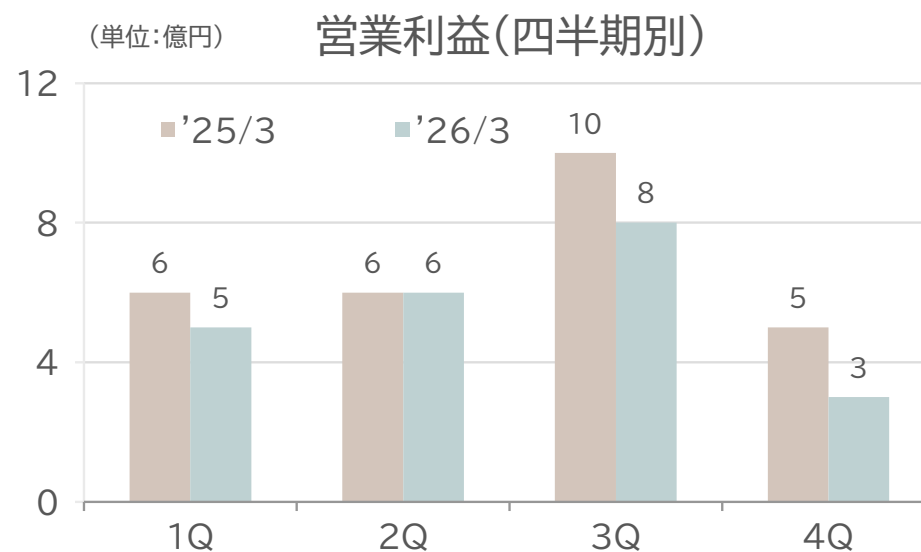
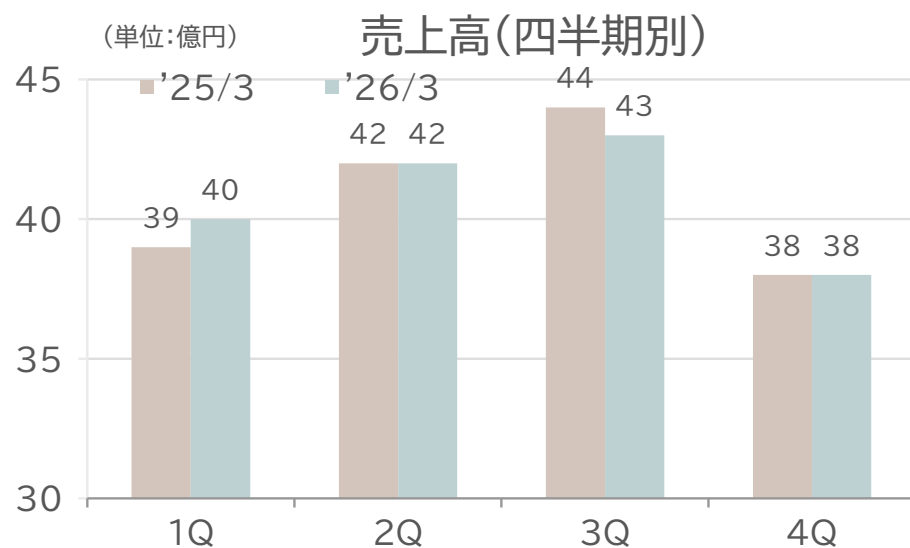
(単位:億円)	2025年3月期 実績	2026年3月期 実績	対前期比増減	
			(億円)	増減率(%)
売上高	158	169	11	7.2
営業利益	8	8	▲0	▲5.9



2026年3月期 物流事業 売上高・営業利益(前期比)

ドライバーの積極採用などに伴う人件費などの上昇により減益。

(単位:億円)	2025年3月期 実績	2026年3月期 実績	対前期比増減	
			(億円)	増減率(%)
売上高	165	166	0	0.5
営業利益	28	24	▲4	▲15.1



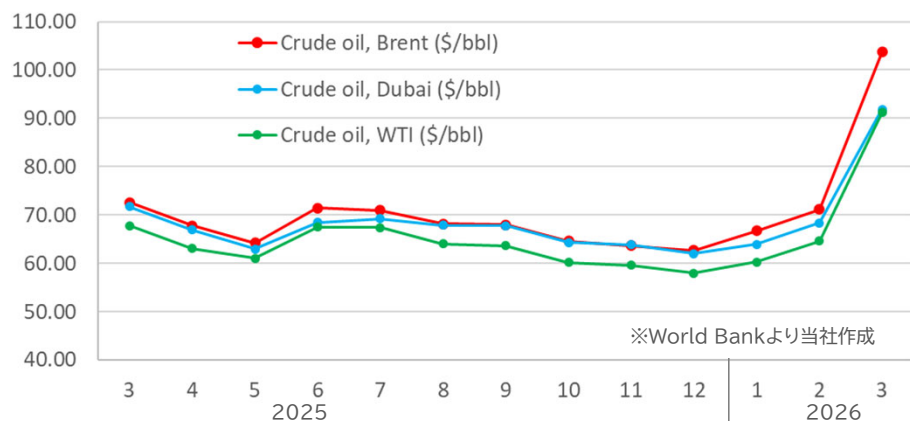
2027年3月期計画



外部環境

事業環境では、資材・エネルギー価格の上昇や円安に加え、白身魚原料・飼料価格の上昇がみられる。

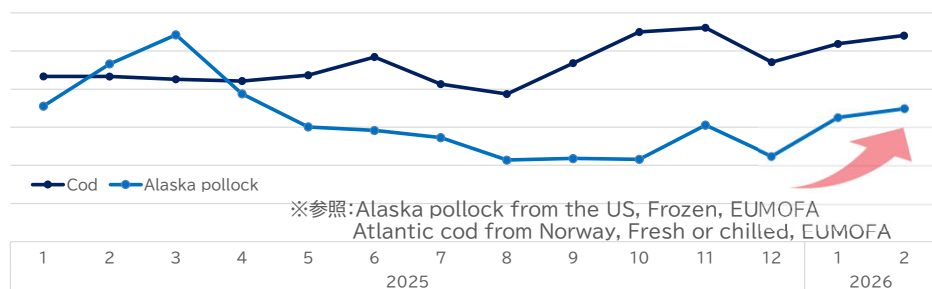
原油価格の推移(ブレント・ドバイ・WTI) (単位:USD)



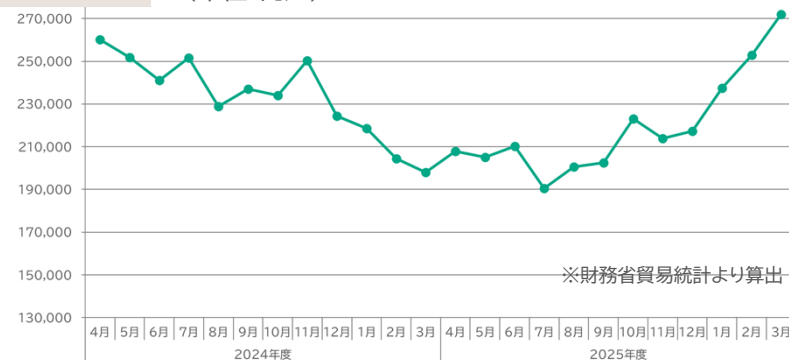
ドル円相場の推移 (単位:円)



白身魚 市況価格の推移 (Unit:EUR/kg)



魚粉価格の推移 (単位:円/t)



2027年3月期計画 サマリー

水産は南米養殖・北米加工を中心に増益、ファインは医薬品原料の販売拡大による増益により、国内新工場の費用負担がある食品をカバー。
 経常利益は、成長投資に伴う金利負担の増加を織り込み、横ばいの計画。

	2026年3月期 実績	2027年3月期 計画	対前期比 増減	増減率(%)	中期経営計画 2028年3月期	為替前提: 米ドル(USD) 150.00円
売上高	9,312 億円	9,800 億円	487 億円	5.2	9,700 億円	
営業利益	404 億円	425 億円	20 億円	5.1	410 億円	
経常利益	431 億円	430 億円	▲1 億円	▲0.4	425 億円	
親会社株主に 帰属する当期 純利益	275 億円	290 億円	14 億円	5.4	300 億円	

※中東情勢の業績影響は、現時点でその影響額を合理的に算定することが困難であるため計画数値には含めていない。

事業環境変化への対応(中東情勢について)

中東情勢により、2027年3月期計画に対して包材・原材料・エネルギーコスト上昇などの影響が出る可能性。

<想定される主な影響>

包材・消耗品	供給ひっ迫による調達制約、価格上昇
原材料	水産・食品原料価格の上昇、ファインケミカル事業に関する溶剤等の価格上昇
エネルギー	工場関連の動燃水を含む燃料コスト上昇
物流	輸送コストの上昇、輸出入スケジュールの遅延・不安定化、入出庫の減少

→ 先行調達や調達分散、市場動向を踏まえた適時適切な価格対応を進めることで、事業への影響を最小限に抑えていく。

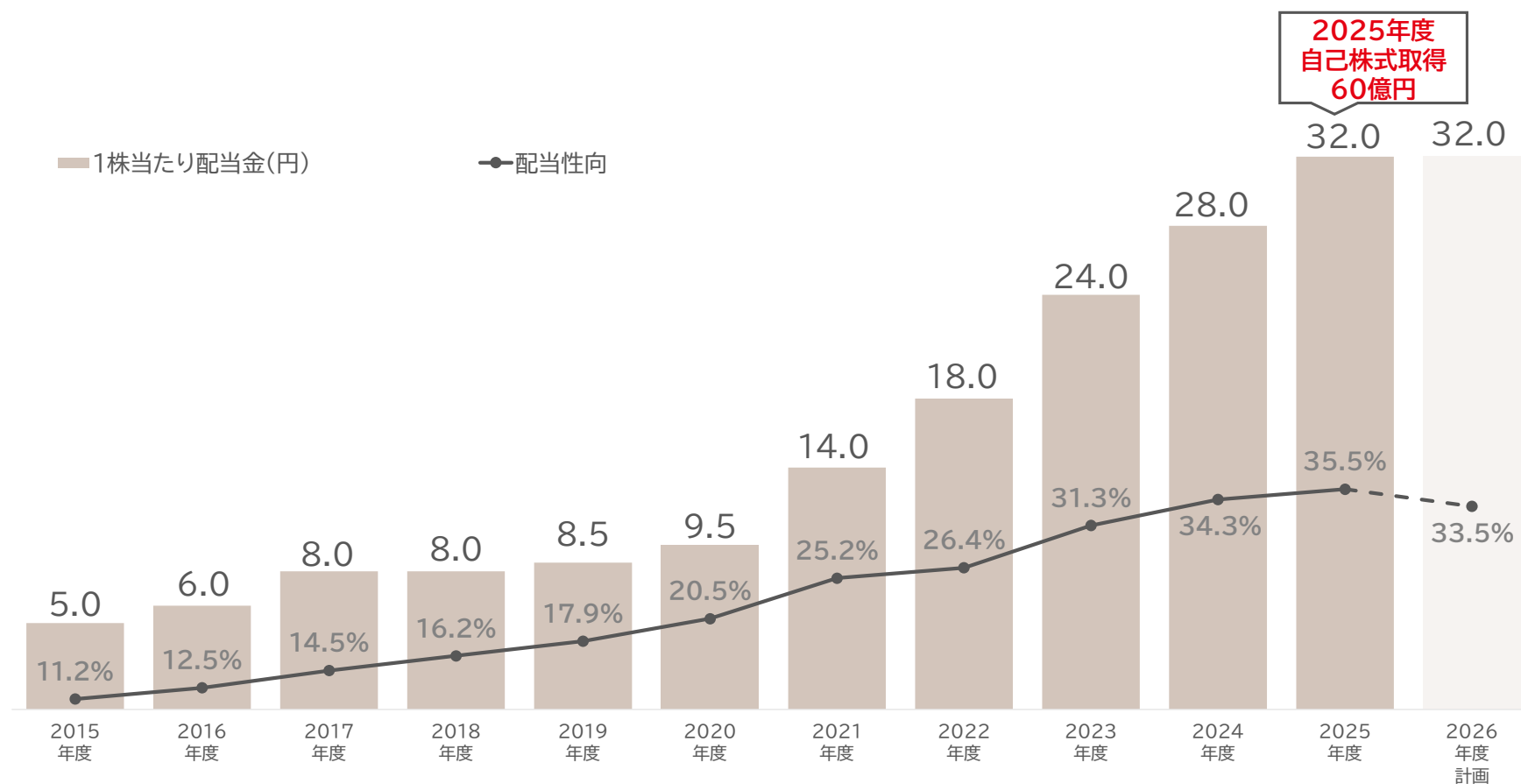
2027年3月期計画 定量指標

ROIC・ROEは前年並みで計画。養殖・食品の拡大に伴い、海外所在地売上高比率を向上させる一方、成長投資を優先する中でネットD/Eレシオは一時的に目標レンジを上回る見込み。

	2026年3月期 実績	2027年3月期 計画	対前期比 増減	中期経営計画 2028年3月期
ROIC	5.9 %	5.9 %	0.0	6.0 %
ROE	9.5 %	9.4 %	▲0.1	10.0 %
海外所在地 売上高比率	41.2 %	44.3 %	3.1	43.0 %
ネットD/E レシオ	0.8	0.9		0.7~0.8
総還元 性向	57.4 %	33.5 %		3年間で40 %

2027年3月期計画 株主還元

安定的な配当を実現しつつ、3年間の総還元性向40%以上を目指す。
2026年度は、自己株式消却716万株(発行済株式総数の2.29%)を実施。



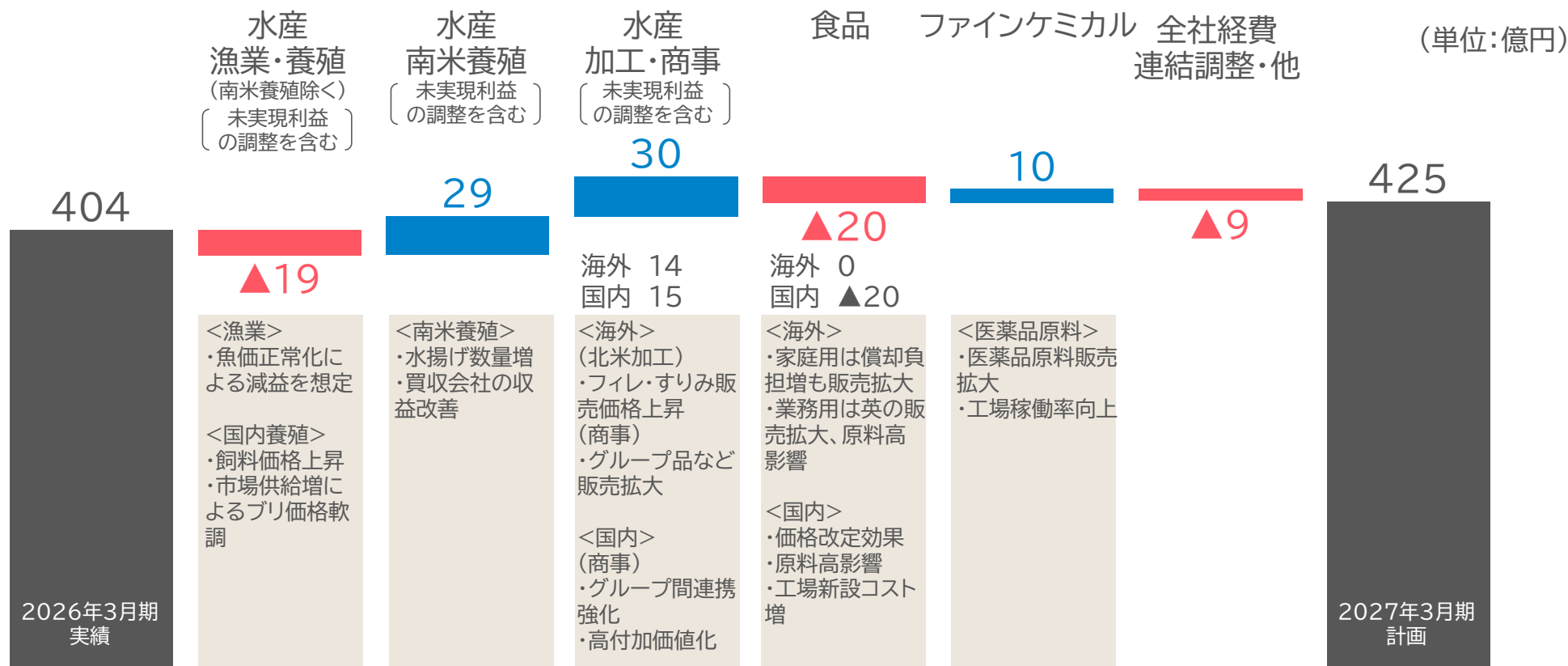
2027年3月期計画 セグメント別概況

南米養殖会社の新規連結や欧米食品の販売拡大などにより増収を見込む。

(単位:億円)	2026年3月期 実績	2027年3月期 計画	対前期比増減		中期経営計画 2028年3月期
			(億円)	率(%)	
売上高	9,312	9,800	487	5.2	9,700
水産事業	3,801	4,074	272	7.2	3,759
食品事業	5,009	5,206	196	3.9	5,408
ファインケミカル事業	169	174	4	2.5	265
物流事業	166	177	10	6.5	181
その他	165	169	3	2.2	87
営業利益	404	425	20	5.1	410
水産事業	177	216	38	21.6	192
食品事業	296	278	▲18	▲6.2	289
ファインケミカル事業	8	18	10	120.5	36
物流事業	24	26	1	7.9	9
その他	4	1	▲3	▲70.0	7
全社経費	▲107	▲115	▲7	7.3	▲123
経常利益	431	430	▲1	▲0.4	425
親会社株主に帰属する当期純利益	275	290	14	5.4	300

2027年3月期計画 主な営業利益増減要因(前期比)

南米養殖、水産加工商事、ファインケミカルで増益を見込む。国内養殖の飼料価格上昇や国内漁業の市況影響、国内新工場の費用負担をカバーする計画。



2027年3月期計画 連結貸借対照表(前期末比)

前期の南米養殖会社買収や国内新工場などの成長投資による有利子負債の増加もあり、成長投資を優先する中でネットD/Eレシオは一時的に目標レンジを上回る見込み。

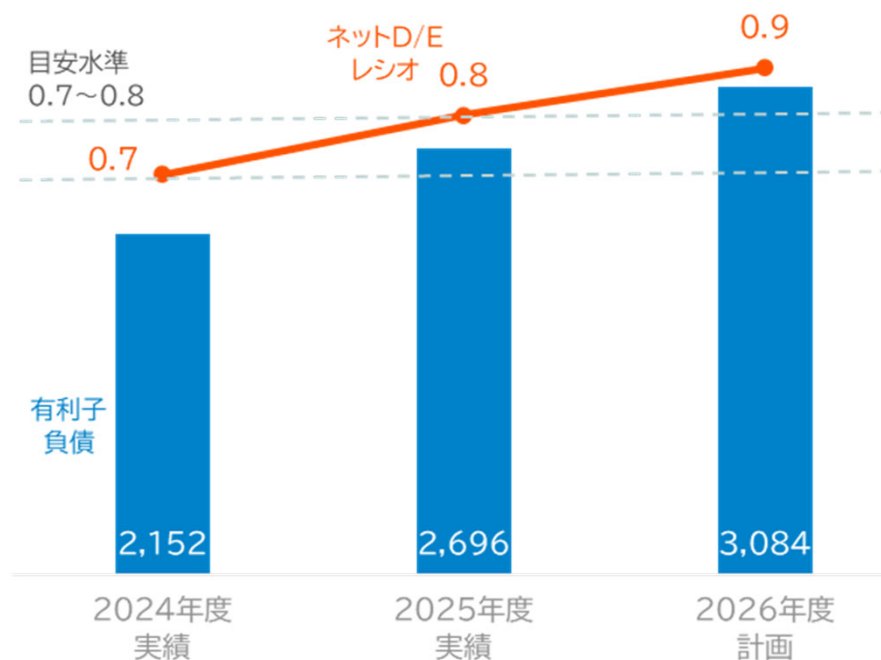
()内の数字は前期末比増減

(単位:億円)

流動資産	3,855	(+95)	負債	4,807	(+411)
現金及び預金	210	(+8)	支払手形及び買掛金	678	(▲106)
受取手形及び売掛金	1,195	(+39)	短期借入金及び コマーシャル・ペーパー	1,292	(▲38)
棚卸資産(在庫)	2,256	(+14)	未払費用	350	(+34)
固定資産	4,195	(+461)	長期借入金	1,558	(+348)
有形固定資産	2,533	(+348)	社債	200	(+100)
無形固定資産	354	(▲25)			
投資その他の資産	1,307	(+137)			
総資産	8,051	(+556)	純資産	3,244	(+144)
			自己資本	3,136	(+135)

自己資本比率
'26/3 40.0% ⇒ '27/3 39.0%

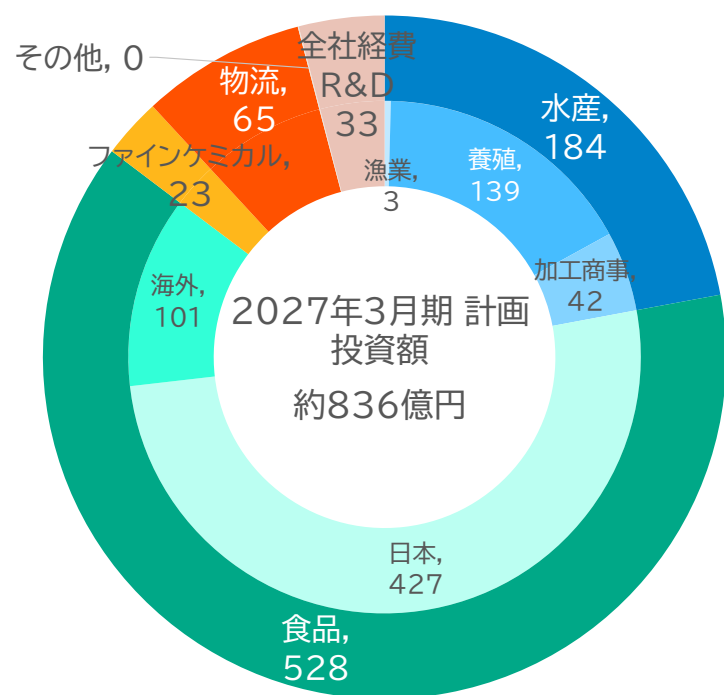
<ネットD/Eレシオ・有利子負債の推移>



2027年3月期計画 設備投資

養殖の高度化への投資、国内食品の新工場建設や海外食品の生産能力増強投資など重点成長領域分野を中心に投資を計画。

<設備投資内訳>
※完成ベース



<主な設備投資の内訳>
※完成ベース

2027年3月期 計画	
水産	
養殖	南米淡水養殖場、養殖設備・船舶
食品	
日本	新工場建設
海外	欧米工場のライン増設投資
ファイナケミカル	
日本	工場生産性向上投資他
物流	
日本	新物流センター建て替え投資

2027年3月期計画 連結キャッシュフロー(前期比)

南米養殖会社の買掛金処理により営業CFが減少し、投資CFは国内新工場建設などにより設備投資額が増加する計画。

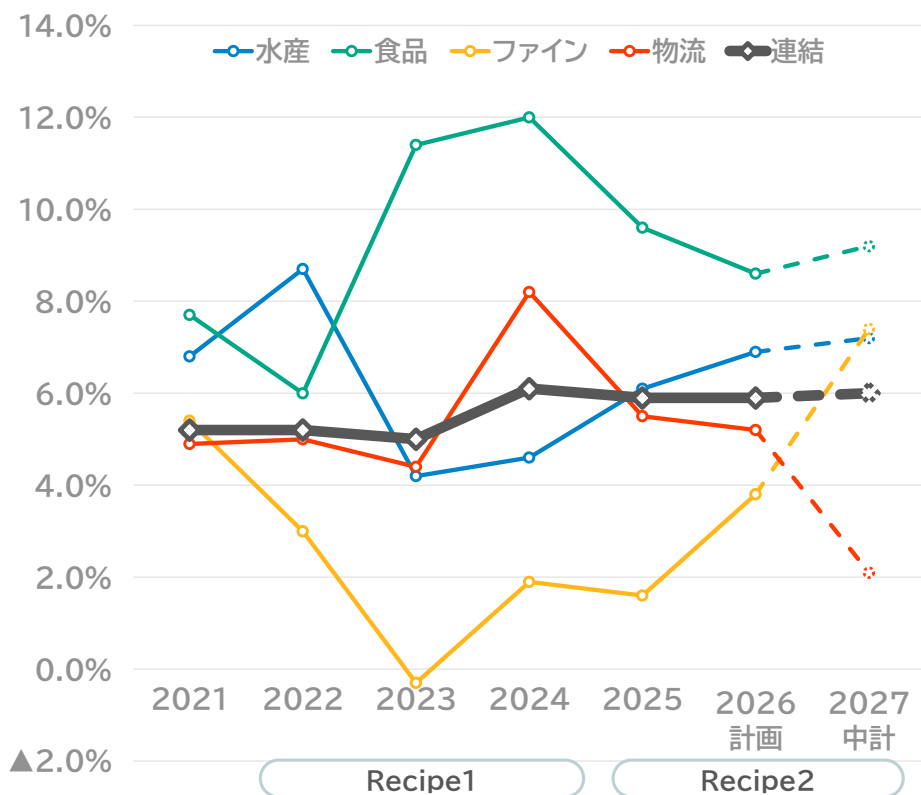
(単位: 億円)	2026年3月期 実績	2027年3月期 計画	増減
・税金等調整前当期純利益	431	425	▲ 6
・減価償却費(のれん償却含む)	271	292	20
・運転資本	▲ 79	※ ▲ 119	▲ 40
・法人税等の支払額	▲ 79	▲ 128	▲ 49
・その他	▲ 12	▲ 39	▲ 27
営業活動によるCF	532	429	▲ 102
・設備投資額(固定資産取得額)	▲ 443	▲ 623	▲ 179
・その他	▲ 170	▲ 84	86
投資活動によるCF	▲ 614	▲ 707	▲ 93
・社債・借入金の増減	309	400	90
・その他	▲ 178	▲ 111	66
財務活動によるCF	131	288	157
現金及び現金同等物の期末残高	242	253	

※南米養殖会社の取得による長期買掛金返済 ▲101

2027年3月期計画 セグメント別ROIC

水産およびファインケミカルで改善する一方、食品での新工場投資の影響もあり、連結ROICは横ばいを想定。中期的なROIC水準の引き上げに向け、取り組みを継続。

▶ ROIC推移(%)



Recipe2の取り組み

水産	グループシナジーを最大限活用した収益拡大、在庫マネジメントの徹底を継続。養殖では輸出強化による販売拡大、高付加価値化による利益率改善を図る。
食品	海外は拡大した設備での生産開始、国内は工場再構築を計画。在庫マネジメントの徹底継続、自動化、省人化設備導入による生産性向上、単品別収支管理によるカテゴリー・アイテム最適化を推進。
ファインケミカル	販売再拡大と工場稼働の最適化。原料在庫・製品在庫の適正化。
物流	庫腹増強に応じた効率化とサービス高度化による収益改善。

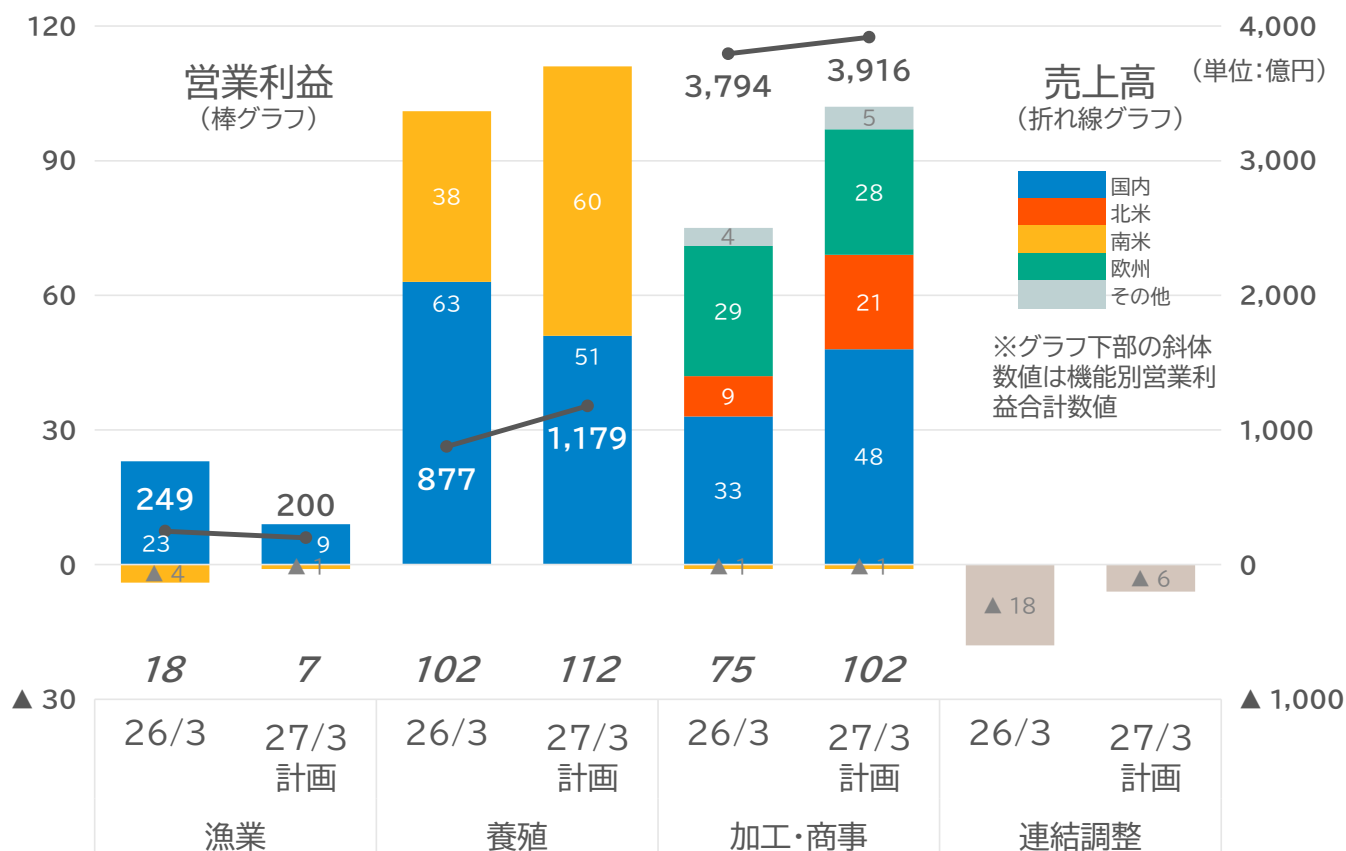
各事業の今後の取り組み



2027年3月期の取り組み：水産事業

国内養殖はブリ市況価格低下影響も、南米養殖は水揚げ数量増と買収会社の収益改善。北米加工は赤字幅縮小、国内商事はグループ品の販売強化と高付加価値化。

(単位:億円)	2026年3月期 実績	2027年3月期 計画	対前期比増減	
			(億円)	増減率(%)
売上高	3,801	4,074	272	7.2
営業利益	177	216	38	21.6



今後の取り組み：水産事業(南米養殖)

水揚げ数量拡大に加え、買収会社の収益改善とシナジー創出を進める。
2026年度上期は赤字が残るが、下期以降の黒字化に向けて取り組む。

▶ 買収会社の収益改善

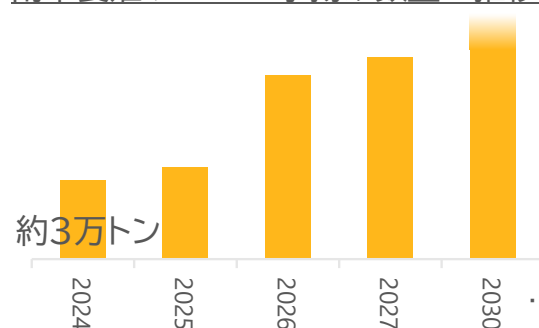
効果発現イメージ		26年度 (上期)	26年度 (下期)	27年度 以降
正常化	養殖成績の改善	→		
	オペレーション 内製化	→		
	飼料コストの改善	→		
	数量増加	→		
シナジー	漁場ミックス効果	→		
	高付加価値化・ 販売エリア拡大	→		

▶ シナジー実現に向けた施策

2030年度には、南米養殖会社のグループ参加及びシナジーにより、赤字からの回復に加え40～50百万米ドル程度の利益プラス効果を見込む。

- 各魚種に適した漁場を活用することで、魚病発生を低減、生産の効率化、増産を実現。
- 淡水養殖場の新設(26年度稼働予定)による、種苗供給力の強化。

南米養殖サーモン 水揚げ数量の推移



買収会社とのシナジーで
生産規模を8万トン強へ

今後の取り組み：水産事業(国内養殖)

事業拡大による生産規模の拡大や生産性向上に加えて、設備投資強化による付加価値向上を図る。

▶ 事業拡大・生産性向上

ー (鮭鱒)

国内サーモン養殖会社を「ニッスイサーモン」に社名変更し、ブランドも統一。事業拡大を図りつつ持続可能なサーモン供給体制の構築を推進。岩手県での漁場拡大を進め、約4,100トン(2025年)→約10,000トン(2030年)へ。



ー (ブリ)

大型浮沈式生簀の導入などにより、ブリ類 約9,400トン(2025年)→約16,000トン(2030年)へ。



ー (マグロ)

短期養殖本まぐろへのシフトを進め、養殖コスト・リスク低減を図り収益性を向上。短期養殖比率を47%(2025年)→67%(2030年)へ。

▶ 設備投資強化による付加価値向上

ー (鮭鱒)

給餌バージの導入、加工プロセスの省人化や切身ライン増強を進める。

ー (ブリ)

大型生簀の入れ替えにより、操業効率向上を図る。

ー (マグロ)

加工設備を増強することで、加工品比率を向上させる。

今後の取り組み：水産事業(加工商事)

北米加工事業は、高付加価値商品の比率向上とオペレーション改善により赤字幅を縮小していく。商事事業は、グループ品の販売拡大やリテール向け販売を強化。

▶ (北米加工)原魚価値の最大化

ー すりみと比較して価格が高値安定しているフィレの生産比率を高める。



ー フレキシブルな人員配置に加えて、漁船との協働体制の強化を継続。

▶ (商事)グループ間連携強化・高付加価値化

ー グループ養殖会社の商品の販売強化に加えて、商品の加工度を高めた食材化商品の拡大により、収益性向上。

▶ (商事)グループ品の販売拡大

ー (北米)南米養殖会社の鮭鱒、北米加工会社のマダラ・カニなどのグループ品の販売を拡大。

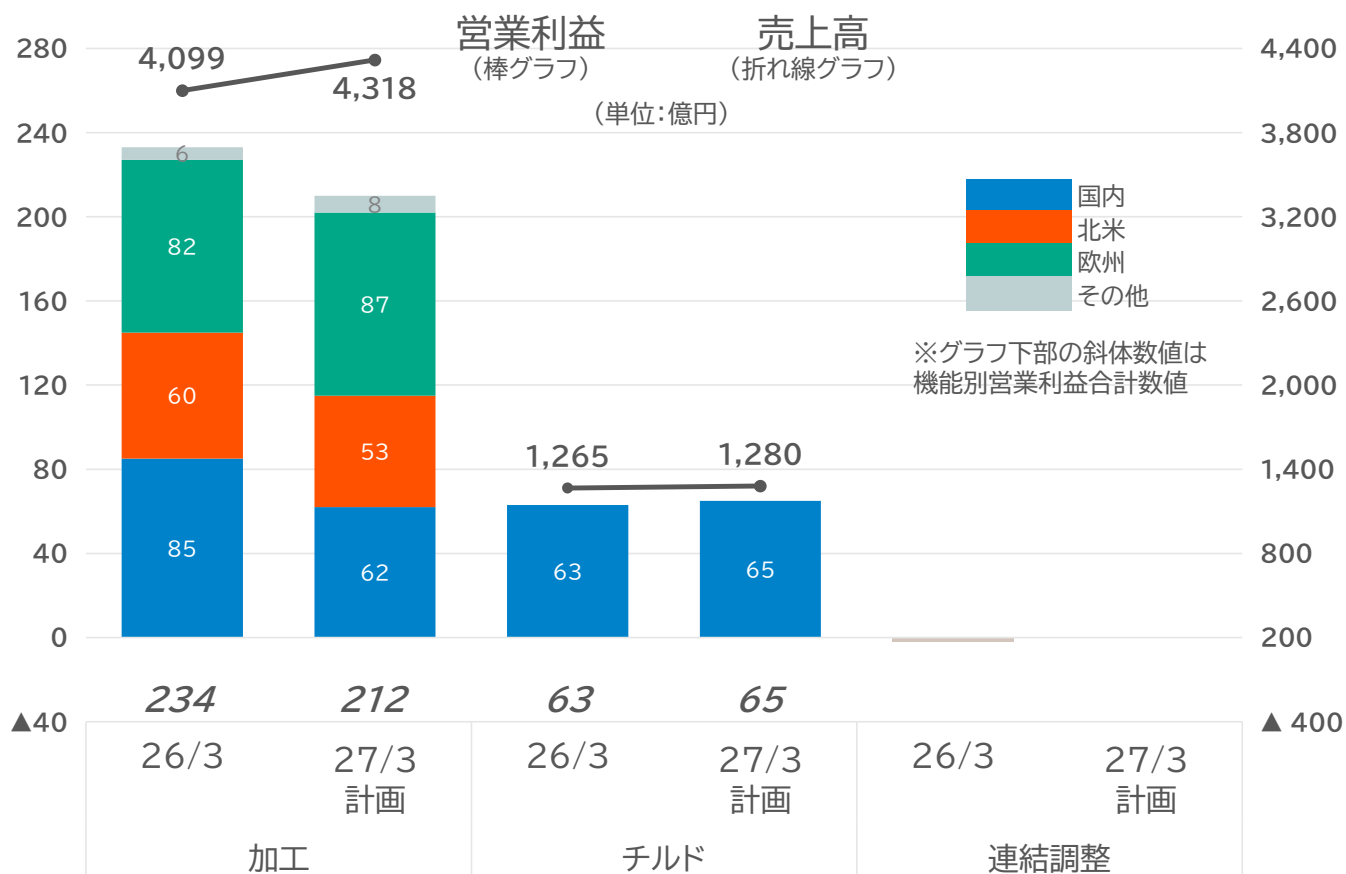
ー (欧州)日本産養殖ブリ・ホタテの販売強化。需要増が見込まれるリテール向けの販売を強化。



2027年3月期の取り組み： 食品事業

欧州はイギリスの販売拡大、北米は家庭用の生産拡大を見込むも、原料高影響・償却負担が増加。国内は価格改定効果も、新工場の費用負担が増加。

(単位:億円)	2026年3月期	2027年3月期	対前期比増減	
	実績	計画	(億円)	増減率(%)
売上高	5,009	5,206	196	3.9
営業利益	296	278	▲18	▲6.2

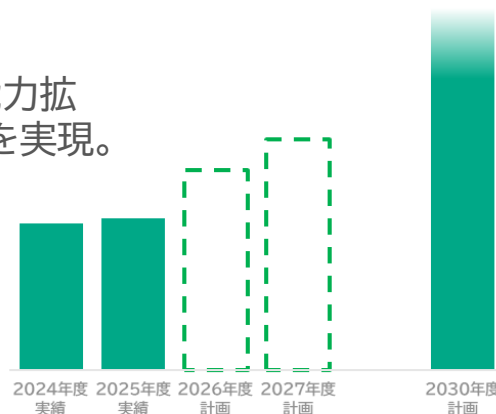


今後の取り組み： 食品事業

生産能力の増強および新規顧客の開拓を進める。

▶ (欧米)生産能力の増強と 海外食品事業の売上高 推移 生産体制の最適化

- 工場の新設・増設に伴い、生産能力拡張や生産性向上、物流の効率化を実現。



▶ (イギリス)新規顧客の開拓

- 量販店・外食など業務用の新規顧客開拓を進め、販売数量の拡大を図る。



▶ (アジア)高品質基準を活かした顧客基盤・販売拡大

- グローバルな品質基準(GMP※)への適合を強みに、タイを中心とした大手ファストフード企業との取引拡大を進め、収益増加につなげる。

※GMP: Good Manufacturing Practice。製品を常に一定の品質で安全に製造するための管理基準



今後の取り組み： 食品事業

効率的な生産体制の構築・差別化による価値創造を進める。

▶ 中長期的な価値創造に向けた生産体制

- 一 生産集約による効率化を推進。また、AIを活用した生産最適化や、環境負荷低減による人と地球にやさしい生産現場も実現。
- 一 北九州新工場への設備投資は、総額約350億円を計画。短期的には初期費用・減価償却負担が先行するも、生産性向上により、2030年には投資前利益水準へ回復させ、長期的には収益基盤の強化を目指す。



▶ 個食・簡便・健康ニーズに応えるカテゴリー強化

- 一 健康領域食品の拡大や、ワンプレート冷凍食品などグループ間のノウハウを融合した簡便な商品を展開。個食・簡便・健康といった消費者ニーズに応えることで差別化。




▶ 単品別収支管理による収益性改善を継続 コストアップに対応した価格改定も検討


- 一 単品別収支管理により、適正な利益の取れないアイテム・カテゴリーの削減を引き続き実施し、収益性を改善。
- 一 コストアップに対応した価格改定は継続して検討


今後の取り組み： ファインケミカル事業


医薬品原料の国内販売・欧米向け輸出のさらなる拡大により、工場稼働率も向上

▶ 医薬品原料の販売拡大

日本
 2025年12月持田製薬がエパデールの**AG(※)**発売。今後のさらなる販売拡大に期待。
※AG:オーソライズドジェネリック(先発医薬品メーカーから許諾を得て、製造・販売されるジェネリック医薬品)

北米
 アマリン社が先発品シェアをキープ、在庫量が落ち着き堅調な原料購買サイクルへの回帰を期待。

欧州
 アマリン社が**10ヶ国で販売中(※)**。他、各国で取り組み中。2025年6月アマリン社が心血管系疾患領域の医薬品販売に強い販売会社(レコルダティ社)と独占ライセンス・供給契約を締結。販売量は安定して成長している。
※2026年2月25日時点

アジア他
 持田製薬がエパデールの新薬承認を取得したタイ・ベトナム・中国での販売実現に加えて、その他の国々への申請承認の拡大を期待。

▶ 工場稼働率の向上

医薬品原料の国内外販売拡大に伴い工場稼働率を向上させ、原価低減を図る。

企業ブランド価値向上に関する取り組み

サステナビリティを中心とした取り組みを着実に推進し、社会からの信頼を積み重ねることで、企業ブランド価値の向上につなげる。

サステナビリティに関する取り組み・外部評価

本邦初の
ブルー・ネイチャー・ボンド発行

調達資金の全額を持続可能な養殖事業(黒瀬水産・SA社)に係る支出に充当する国内普通社債(ブルー・ネイチャーボンド)を発行。



CDP「気候変動」で
初の「A-」評価を獲得



環境省
「ESGファイナンス・アワード・ジャパン」
ネイチャーポジティブ賞受賞



ステークホルダーとの対話(外部評価)

第5回日経統合報告書アワード
優秀賞 受賞



人的資本(外部評価)

健康経営優良法人2026
(大規模法人部門(ホワイト500))





バリューチェーン強靱化を通じ、
長期ビジョン

「人にも地球にもやさしい食を世界に
お届けするリーディングカンパニー
(GOOD FOODS 2030)」
達成に向けて取り組んでまいります。

見通しに関する注意事項

本資料に記載されている、当期ならびに将来の業績に関する見通し等は、現在入手可能な情報に基づき当社の経営者が合理的と判断したものであり、これらの達成を保証するものではありません。

実際の業績は、様々な要因により、見通し等とは大きく異なることがあります。その要因としては、市場の経済状況および製品の需要の変動、為替相場の変動、国内外の各種制度や法律の改定などが含まれます。

従いまして、本資料の利用は、利用者の判断によって行いますようお願い致します。本資料の利用によって生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負うものではないことをご認識頂きますようお願い申し上げます。



まだ見ぬ、食の力を。

株式会社ニッスイ
証券コード：1332

お問合せ先：経営企画IR部IR課
03-6206-7037

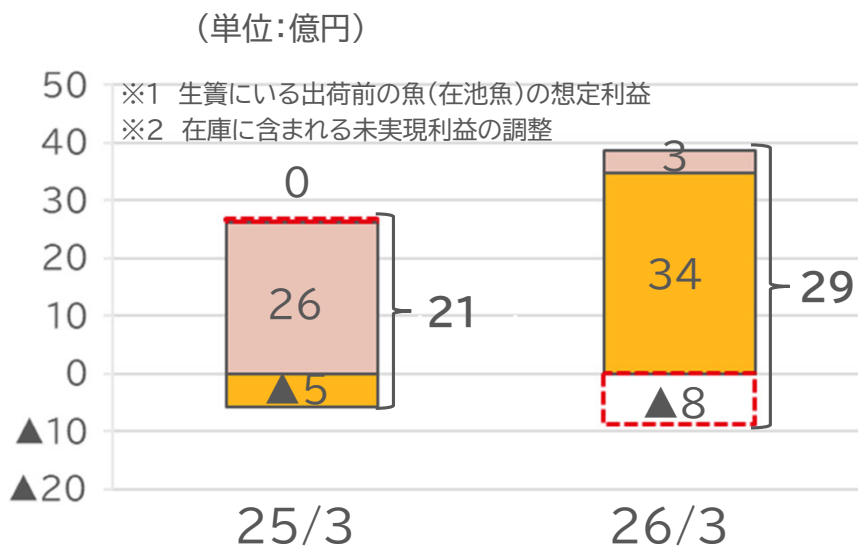
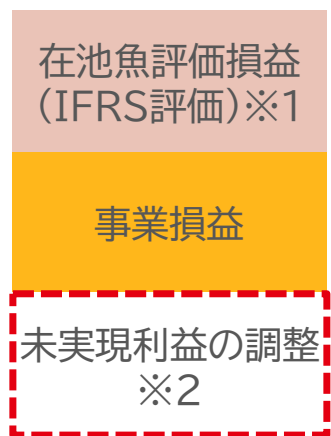
<https://www.nissui.co.jp/ir/index.html>

參考資料



2026年3月期 南米鮭鱒養殖について

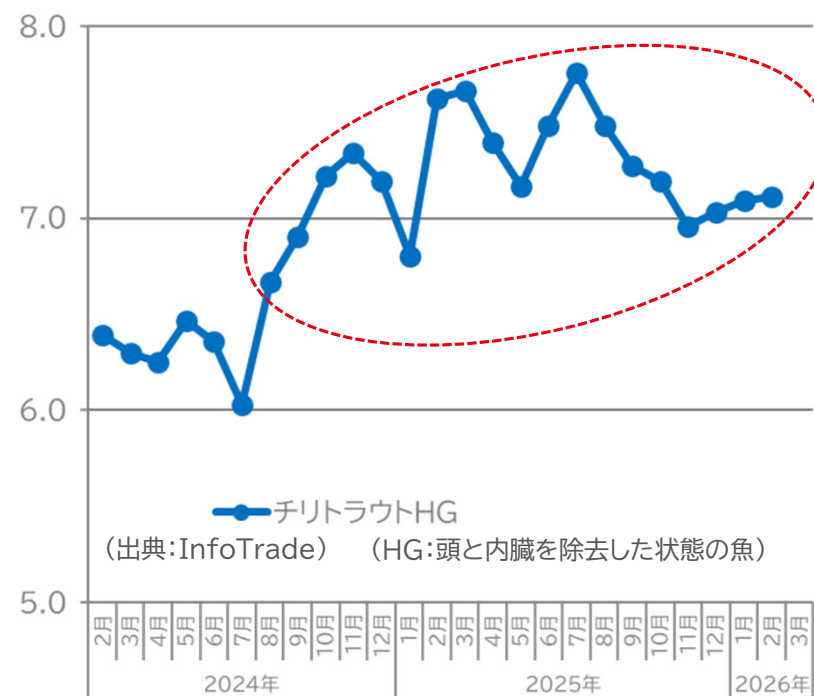
在池魚評価損益はほぼ影響なしも、前年の在池魚評価益の反動が大きい。



<在池魚評価損益 内訳>

(単位:億円)	25/3	26/3
期首戻入額	22	▲3
期末評価損益	4	7
在池魚評価損益	26	3

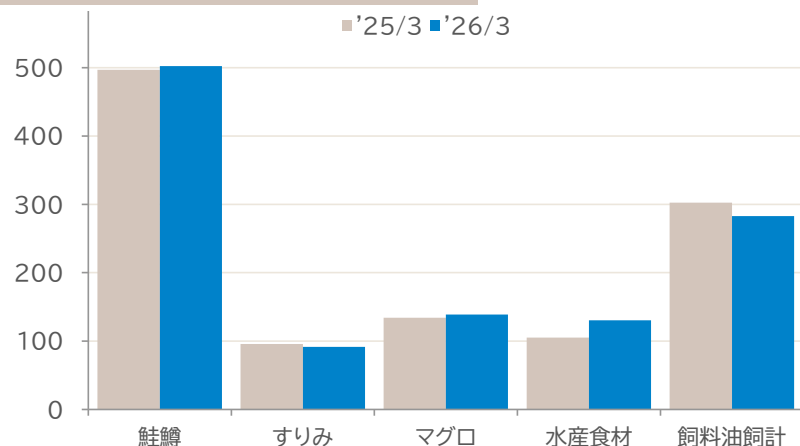
チリ産トラウトHG相場推移
(単位:USD/kg)



2026年3月期 参考資料(実績)

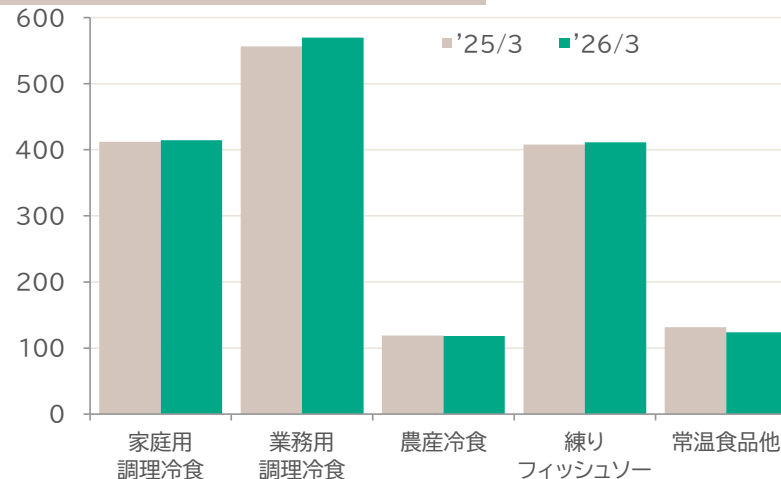
水産個別 主要魚種別売上高

(単位:億円)



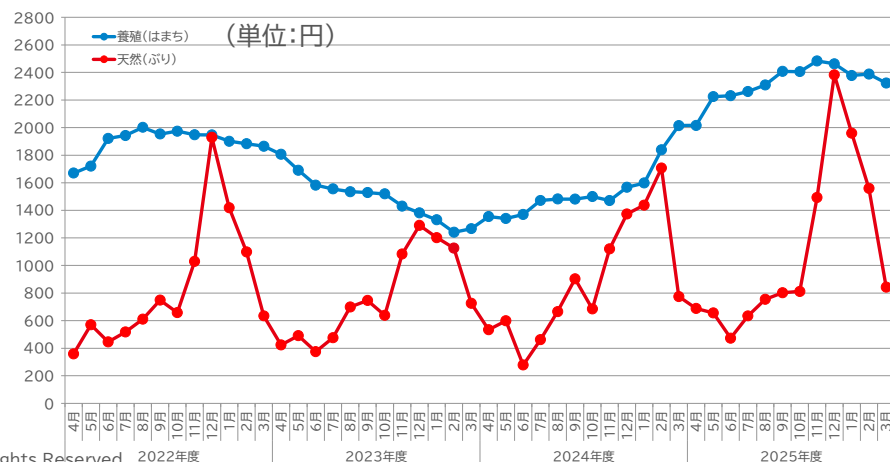
食品個別 カテゴリー別売上高

(単位:億円)



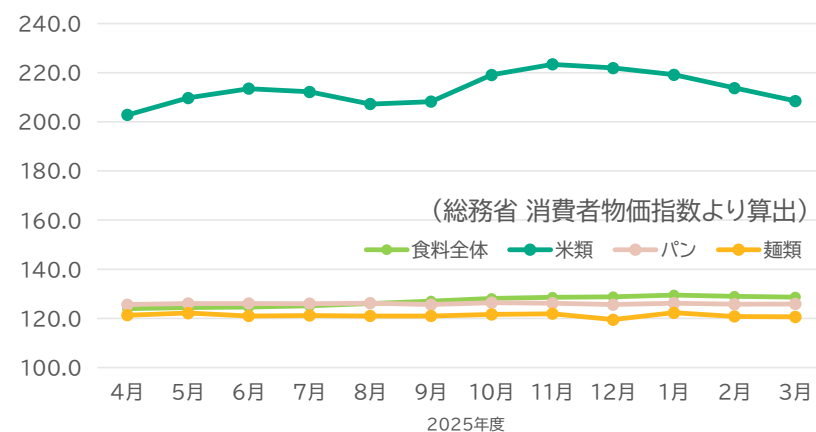
ブリ

出典:東京都中央卸売市場のデータを加工して作成(鮮魚)
天然:「ぶり」の平均価格、養殖:「はまち(養殖)」の平均価格



食料価格の推移(米類・パン・麺類)

(指数:2020年=100)



2026年3月期 連結損益計算書(前期比)

(単位:億円)	2025年3月期 実績	2026年3月期 実績	増減	主な増減要因
売上高	8,861	9,312	451	
売上総利益	1,392	1,521	129	
販売費・一般管理費	1,074	1,117	42	
営業利益	317	404	86	
営業外収益	72	65	▲7	持分法による投資利益▲12、助成金収入+6
営業外費用	37	38	0	
経常利益	353	431	78	
特別利益	24	21	▲2	
特別損失	14	21	6	減損損失+7
税金等調整前当期純利益	362	431	69	
法人税等	102	112	10	
法人税等調整額	▲12	23	35	
当期純利益	272	295	23	
非支配株主に帰属する 当期純利益	18	20	2	
親会社株主に帰属する 当期純利益	253	275	21	

2026年3月期 為替換算による影響額(売上高)、為替レート (連結調整前)

主要在外会社の 為替換算レート	2025年3月期		2026年3月期		前年同期比増減		増減内訳(億円)	
	現地通貨	円貨(億円)	現地通貨	円貨(億円)	現地通貨	円貨(億円)	現地通貨	為替影響
USD(百万ドル)	1,492	2,275	1,621	2,433	128	157	194	▲36
EUR(百万ユーロ)	451	742	475	807	23	64	39	25
DKK(百万クローネ)	3,504	773	3,653	873	148	100	75	25
その他通貨	—	399	—	431	—	31	20	10
計		4,191		4,545		354	329	24

【参考:為替レート】

	2025年3月期	2026年3月期	変動率
米ドル(USD)	146.66 円	148.40 円	1.2%
ユーロ(EUR)	161.59 円	172.23 円	6.6%
デンマーククローネ (DKK)	21.66 円	23.08 円	6.5%

2026年3月期 セグメントマトリックス 売上高(前期比)

(単位:億円)

	日本	北米	南米	ヨーロッパ	アジア オセアニア	仮計	連結調整	連結計
水産事業	2,607 (71)	860 (102)	417 (13)	957 (71)	77 (▲3)	4,921 (255)	▲1,120 (▲95)	3,801 (161)
	2,536	758	404	886	80	4,666	▲1,025	3,640
食品事業	3,169 (151)	1,152 (41)		927 (81)	115 (13)	5,364 (286)	▲354 (14)	5,009 (299)
	3,018	1,111		846	102	5,078	▲368	4,710
ファイン 事業	196 (12)					196 (12)	▲26 (0)	169 (11)
	184					184	▲26	158
物流事業	331 (7)					331 (7)	▲164 (▲5)	166 (1)
	324					324	▲159	165
その他 事業	245 (18)				2 (1)	247 (18)	▲82 (▲40)	165 (▲21)
	227				1	229	▲42	186
仮計	6,549 (258)	2,013 (144)	417 (13)	1,885 (152)	195 (11)	11,062 (579)		
	6,291	1,869	404	1,733	184	10,483		
連結調整	▲1,075 (▲70)	▲239 (▲36)	▲287 (▲17)	▲15 (2)	▲131 (▲7)		▲1,749 (▲127)	
	▲1,005	▲203	▲270	▲17	▲124		▲1,622	
連結計	5,474 (188)	1,773 (108)	130 (▲3)	1,870 (155)	64 (4)			9,312 (451)
	5,286	1,665	133	1,715	60			8,861

※上段は当期累計実績、下段は前年同期累計実績、括弧内は増減を表す。

※連結調整にはグループ間取引による売上高消去を含む。

2026年3月期 セグメントマトリックス 営業利益(前期比)

(単位:億円)

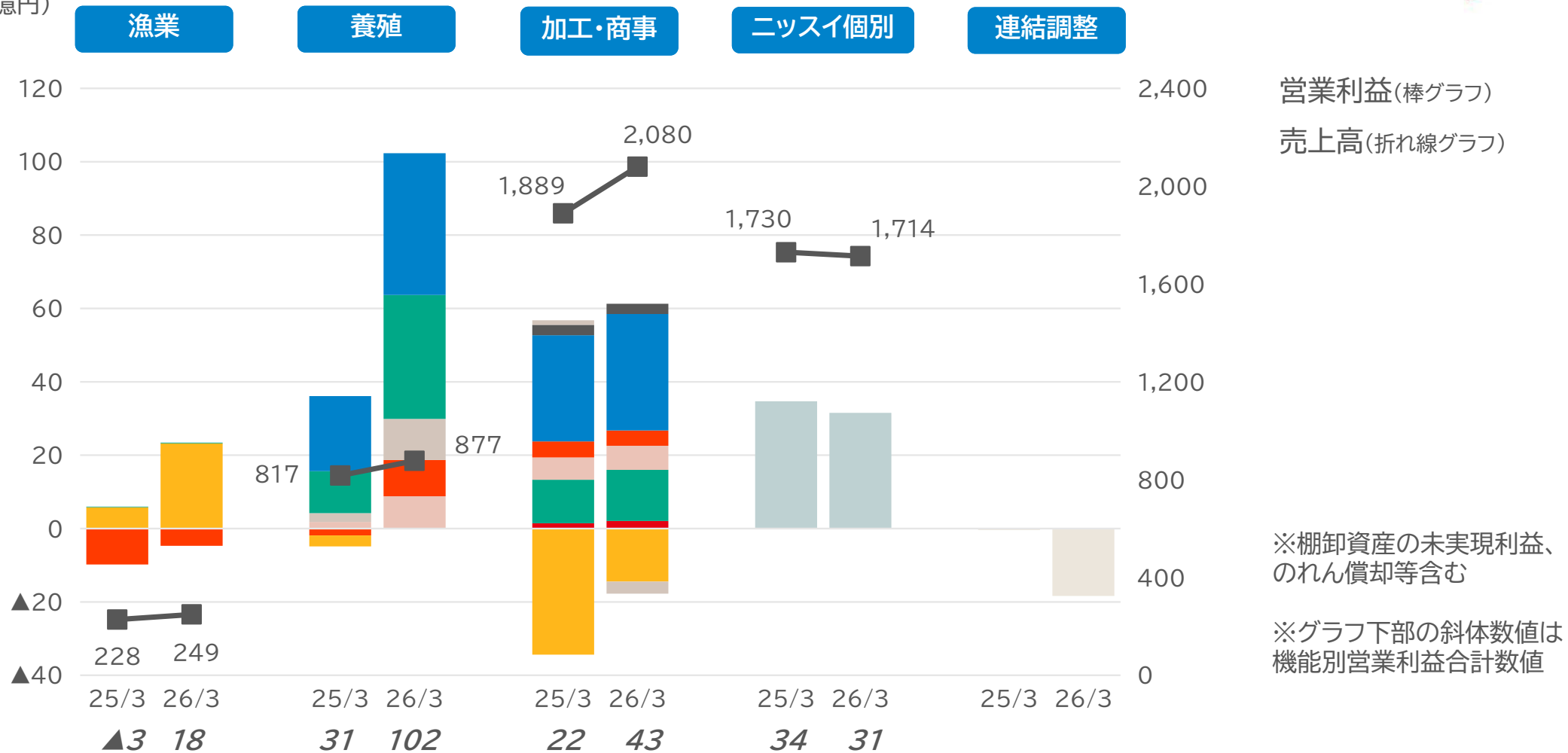
	日本	北米	南米	ヨーロッパ	アジア オセアニア	全社経費	仮計	連結調整	連結計	営業利益率(%)
水産事業	120 (67)	9 (21)	32 (22)	29 (▲0)	5 (0)		196 (111)	▲18 (▲18)	177 (93)	4.7 (2.4)
	53	▲12	9	29	4		84	▲0	84	2.3
食品事業	149 (10)	60 (▲3)		82 (2)	6 (▲1)		298 (8)	▲2 (0)	296 (9)	5.9 (▲0.2)
	138	63		80	7		290	▲3	287	6.1
ファイン 事業	8 (0)						8 (0)	0 (▲0)	8 (▲0)	4.9 (▲0.7)
	8						8	0	8	5.6
物流事業	24 (▲4)						24 (▲4)	0 (0)	24 (▲4)	14.5 (▲2.6)
	28						28	0	28	17.2
その他 事業	8 (0)				0 (0)		9 (1)	▲4 (▲5)	4 (▲4)	3.0 (▲2.0)
	8				▲0		8	1	9	4.9
全社経費						▲107 (▲6)	▲107 (▲6)	0 (▲1)	▲107 (▲7)	
						▲101	▲101	1	▲100	
仮計	310 (74)	69 (18)	32 (22)	111 (1)	11 (▲0)	▲107 (▲6)	429 (111)			
	236	51	9	109	11	▲101	318			
連結調整	▲6 (▲11)	▲1 (▲1)	▲8 (▲9)	▲7 (▲1)	▲0 (▲0)	0 (0)		▲24 (▲24)		
	4	0	0	▲6	0	0		▲0		
連結計	303 (62)	68 (16)	23 (13)	104 (0)	10 (▲0)	▲107 (▲6)			404 (86)	4.3 (0.8)
	241	51	10	103	11	▲101			317	3.6

※上段は当期累計実績、下段は前年同期累計実績、括弧内は増減を表す。

※連結調整にはのれん償却、棚卸資産の未実現利益消去等を含む。

2026年3月期 水産事業 売上高・営業利益(前期比)

(単位:億円)

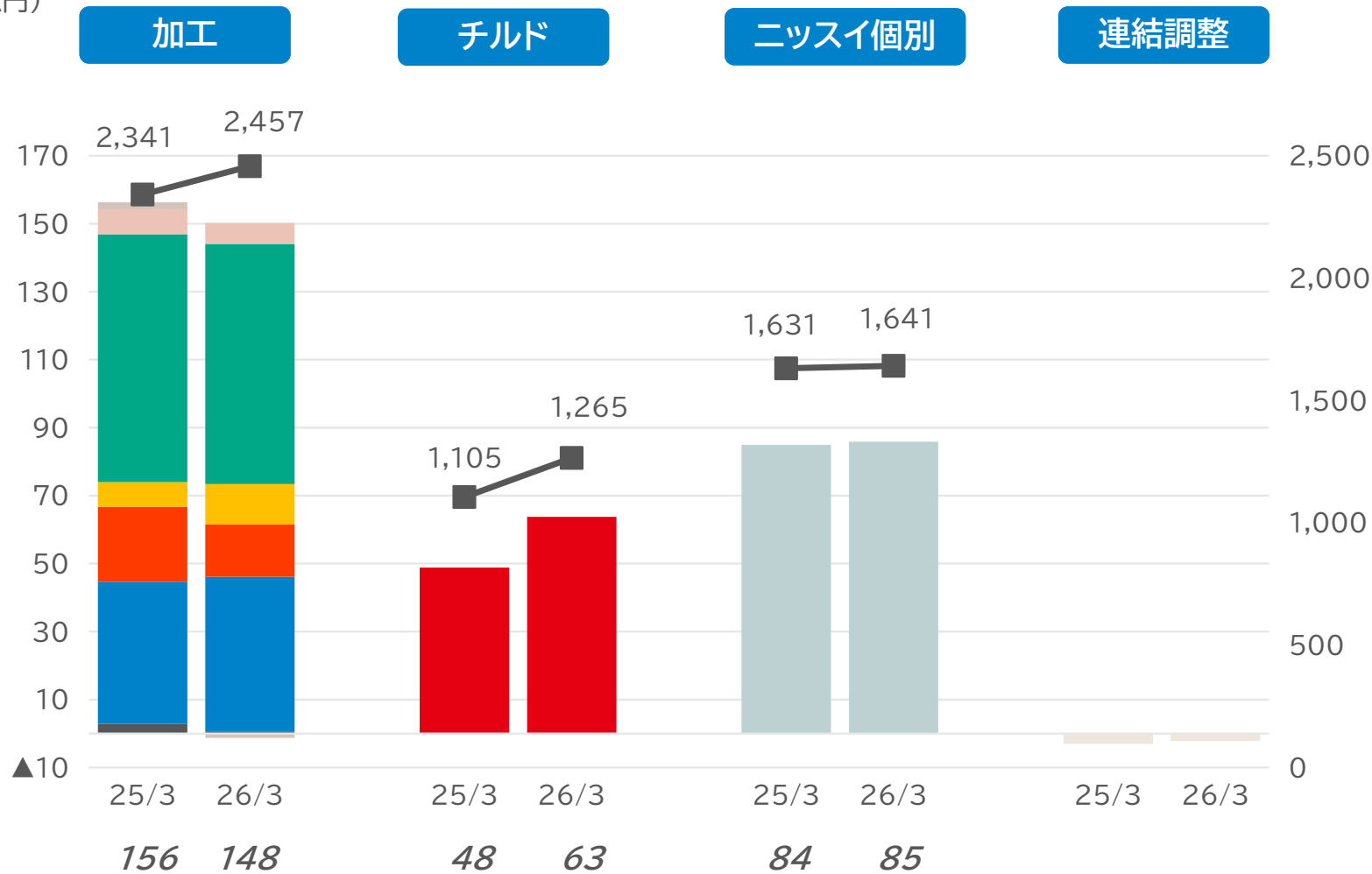


※棚卸資産の未実現利益、のれん償却等含む

※グラフ下部の斜体数値は機能別営業利益合計数値

2026年3月期 食品事業 売上高・営業利益(前期比)

(単位:億円)



営業利益(棒グラフ)
売上高(折れ線グラフ)

※棚卸資産の未実現利益、
のれん償却等含む

※グラフ下部の斜体数値は
機能別営業利益合計数値



まだ見ぬ、食の力を。